

学校の教育目標	豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる山国の子どもの育成
重点目標	○基礎基本の定着と活用力の育成
	○あいさつができる子の育成
	○進んで体を動かす子の育成

評価判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

重点目標	達成指標	達成指標 評定	重点的取組	取組指標	項目 評定	取組 指標 評定	総合 評定	○成果・△課題及び☆具体的改善策	担当
基礎基本の定着と活用力の育成	○学期ごとのまとめのテストで、昨年度末の1段階の割合を50%減少させる。 ○中津市学力状況調査で1段階の児童の割合を30%減少させる。	B	○「課題」について、全職員でクリアにする。 ○自分の考えを持ち、活発に考えの練り合いがある授業を徹底する。	○子どもの困りから生まれた課題と提示のタイミングを意識する。 ○セルフチェックと隣接学年での見合い・確認をする。 ◎研究主任が校内研究で課題づくり・タイミング等の情報交換の場を作る。	C	B	B	○成果 ・「課題」～「まとめ」を意識した1時間完結型の授業改善がなされるようになった。 ・家庭学習がんばりカードや決意カードによる家庭学習の徹底や活用問題の取り組みが見られるようになった。  △課題 ・課題づくりや提示のタイミング、練り合いのある授業展開については、まだまだ不十分である。 ・がんばりカードのチェックや保護者への意識づけ・協力体制の面では課題が残った。  ☆具体的改善策 ・子ども主体の授業・考えの練り合いのある授業とはどんなものか研究をする。 ・家庭学習がんばりカードや補充学習の内容等を隣接学年で情報交換する場を設定する。	授業 （松学力・ 田・情報・ 質来・プロ ジェクト
			○家庭学習の徹底（各学年の課題に応じて） ○家庭読書の徹底	○活用する問題（過去問）を単元終了時や家庭学習の中に週1回は入れ、指導する。 ○毎日の家庭学習の中に読書を位置づける。 ◎家庭学習がんばりカードや決意カード（高学年）の見直しをし、振り返りの場を持つ。	A				
あいさつができる子の育成	○自己評価アンケート（児童・保護者・教職員）で「三郷小の子が先に明るくあいさつをするようになってきた」と回答した割合を90%以上にする。	B	【登校班ごとのあいさつを見直し良い伝統を作る】 高学年があいさつを大きな声でした後に、低学年に一声かける声が大きく出たら褒める	○登校班ごとの担当が定期的に班を集め、実態を把握し班長と一緒に指導していく。 ◎全体が進むように、各班の挨拶の様子を集約していく。 ◇高学年担任は高学年をリーダーとして動くよう学級で指導する。	B	B	B	○成果 ・各学級や児童会で定期的にあいさつについて振り返り、意識を持たせることができた。 ・最近では、高学年で2ストロークあいさつが増えるなど、昨年に比べるとよくなるようになった。 ・保護者や地域の方の協力による「あいさつ運動」が定着してきた。 ・少しずつではあるが、「ふわふわ言葉」が増えてきている。  △課題 ・「いつでも」「どこでも」「だれにでも」自然にできるあいさつや、登校班ごとの指導があまりできなかった。 ・まだ、なかなか声の出ない子どもがいる。  ☆具体的改善策 ・「先に」「明るく」「いつでも」「どこでも」「だれにでも」「声の大きさ」という視点で、子ども自身が本当にあいさつができていのか振り返る。原因・困りは何なのか明らかにする。 ・上級生に学校のリーダーとしての意識を持たせ、下級生の模範になるようにさせる。	生活・地域 プロジェクト （金山・中島・宮地）
			相手の気持ちを考えた言葉遣いをする。	○学級担任が帰りの会で今日の「ふわふわ言葉」をあげさせ、反省させる。 ◇担当は定期的に各クラスの様子を確認・集約する。	B				
進んで体を動かす子の育成	○児童アンケートで「進んで体を動かすことが好き」と回答した割合を90%以上にする。 ○児童アンケートで「休み時間によく運動場や体育館で体を動かして遊んだ」と回答した割合を90%以上にする。 ○児童アンケートで「朝ごはんを毎日食べている」と回答した割合を90%以上にする。	B	○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニングを行う。	◎サーキット内容の共通理解を図り、学年の発達段階に応じた基本メニューを作成する。 ○体育授業（運動場）での外サーキット内容を決定する。 ◇実施状況を週ごとに確認し、サーキットのための効果的な環境を整えていく。	B	B	B	○成果 ・朝のランニングを年間通じてやり遂げたことで、基礎的な体力・持久力はアップしてきた。 ・サーキットで、体をたくさん動かす習慣がついてきた。  △課題 ・サーキットのメニューの整理と、道具等の準備物の整備が必要だ。 ・保健に関する指導が養護教諭や委員会任せになって、学級で意識させることができなかつたので、生活リズムチェックを集計した後、どのように活用していくか考える必要がある。  ☆具体的改善策 ・サーキットのメニュー（領域）を、学年部ごとに決め、掲示していく。 ・年度当初に確認した○週間や、サーキットをしっかりと位置づけ、どの学年も重点的に取り組む。 ・情報交換の最後でも、子どもの様子を話す場を設ける。	体力・健康 プロジェクト （桑原・今井）
			○自分たちでできるかぜひ防（うがい・手洗い・換気）について考えてもらう場を設ける。	◎児童朝会、保健便り等で、感染症にかかりやすい時期に気を付ける内容を呼びかける。 ○休み時間の子どもの様子を気をつけておき、気になることは連絡し合う。 ◇給食時間に委員会の子もたちと呼びかけをする場を持つ。	A				